

2023年 5月19日

「持続可能な物流の実現に向けた検討会」検討事項に対する意見

一般社団法人日本自動車工業会

意見/要望提出にあたり

持続可能な物流の実現に向け、自工会各社の物流効率化は着実に実施・進展してきております。経済産業省様より確認のありました物流効率化に関わる3項目に関しまして、下記の通り回答いたします。

一方、ドライバーの担い手不足の課題については、自動車業界としても大変深刻に受け止めております。自動車産業の裾野は大変広く且つ深く、2024年に施行されるドライバー労働時間規制もある中、OEM各社は効率化に向けてできる限りの取組を行っておりますが、Tier2以下など裾野のどこかで物流が滞る事態もあり得ると懸念しております。自動車は部品が1個欠けても製造できないため影響は甚大であり、大変危惧しております。自工会各社は今後一層物流効率化に努力する所存ですが、経済産業省様始め各省庁におかれましては、自動車産業全体を俯瞰した物流維持に向け引き続きご尽力賜りますようお願い申し上げます。

1. 検討素案について

「(1) 待機時間、荷役時間等の労働時間削減に資する措置及び納品回数の減少、リードタイムの延長等物流の平準化を図る措置」及び「(2) 経営者層の意識改革を促す措置」の導入を検討しております。当該検討に当たりまして、

着荷主としての調達物流（部品、原材料等の調達・商品の仕入れに係る物流）
発荷主としての販売物流（商品等の販売に係る物流）

のそれぞれについて、貴業界の実態を踏まえて留意すべき事項（リードタイム延長、パレット化、荷待ち時間削減、附帯作業の削減等が困難な事由等）についてご教示ください。

<自工会からの回答>

- ◆ 持続可能な物流の取組として、積載率向上、ムダな横走りを無くす、待機時間の短縮、荷役作業の効率化、4つの視点で、各社従前より積極的に物流効率化に取り組んできている。
- ◆ 制度設計にあたっては、先行して物流合理化を進めた業界・企業が不利な取扱いを受けるとの無い、現実に即した妥当性のあるものになるようお願いしたい。
- ◆ リードタイム延長については、自動車各社の物量、荷の特性を考えると、必ずしも延長が効率UPに直接寄与するとは思えない。よって、リードタイムを延長に偏った措置は必ずしも必要ないと考えます。
- ◆ パレット化については自動車各社それぞれパレットでの運用を可能な限り進めており、標準化ありきで進めることには懸念を持っている。「物流を効率化する」という目的を満たしているのであれば、必ずしも標準のものを使う必要はないと考えます。

2. 物流標準化・効率化の推進に向けた環境整備について

物流標準化・効率化に向けた環境整備のために推進すべき設備投資（機器導入、バース予約システムの導入等）や、物流効率化に向けた取組に当たって課題となっている制度があればご教示ください。

<自工会からの回答>

- ◆ 今後、BEV 化進展に伴い自動車重量の増加が見込まれ、成り行きではキャリアカー（車両積載車）の積載台数を下げざるを得ないため、車両総重量規制の緩和を検討いただきたい。
- ◆ 現在、2 輪車はミラー付きでの輸送が義務化されているが、積載率向上の妨げになっているため規制の見直しを検討いただきたい。
- ◆ 25m ダブル連結トラック活用拡大のために環境整備を進めていただきたい。
 - ・ 高速 SA/PA 駐車マスの確保、予約システムの導入(安全面、迷惑回避の観点)
 - ・ 自然災害等でのインフラ不全時を考慮した特認道路の拡大と特認手続きの簡素化

3. その他、物流効率化に関するご意見・ご要望について

上記のほか、検討会における議論内容に関わらず、物流効率化に関連するご意見・ご要望があればご教示ください。

<自工会からの回答>

- ◆ ドライバー不足解消に向け、トラック業界の多重構造の実態把握と今後の解決策の検討を進めていただきたい。

以上